



編集後記

昨年度は、「平成」から「令和」へと年号が変わり、皇位継承に伴う「即位の礼」により祝福ムードが漂う中、新たな時代を迎えた一年でした。

世の中では、ラグビーW杯日本大会が開催され日本代表が初の8強入りを果たし、「桜の戦士」の勇敢な戦いぶりは国内外で称賛を集め、スローガンの「ONE TEAM」は年末の新語・流行語大賞にも選ばれるなど、明るいニュースが多かったと思います。

しかし、一方では、8月に発生した九州豪雨、9～10月に立て続けに発生した大型台風15号、19号は各地で甚大な被害をもたらし、改めて災害の恐ろしさを思い知らされるとともに、新型コロナウイルス、消費税増税、記録的な暖冬等、世の中の動向が不安視される一年でした。

今年は、このような激動の中での本誌の企画・編集作業となりました。

ご存知の通り、「土と岩」に関しては、毎号特集記事としてその年のトピックス的な話題を選定し、その分野でご活躍されている方々にご執筆をお願いしてまいりました。第68号に関する特集テーマについて委員会内で議論したところ、「技術の空洞化」や「技術の継承・伝承」等、業界内の問題に関する提案が多数ありました。このため、本号では、次世代を担う若手技術者には技術習得に対する意気込みを、一方、ベテラン技術者には自身の経験を踏まえ、若手技術者に伝えたいことを執筆していただくこととし、特集テーマを「若手技術者の挑戦」に決定した次第です。

今回の特集から、今の若手技術者が「何を目指しているのか」、そして、ベテラン技術者が「何を伝え、何を残そうとしているのか」を汲み取っていただけると幸いです。

また、特別寄稿では「静岡大学防災総合センター」を取り上げ、同大学岩田教授に主な活動内容を紹介して

いただきました。本号で、2015年(63号)から掲載が始まった東海圏減災研究コンソーシアムに参加する東海3県の6大学がすべて出揃ったこととなります。バックナンバーも合わせて読み返していただき、東海地区の産官学協働での減災活動にも目を向けていただければと思います。

さらに、これまで協会ホームページに掲載されてきた「身近な地質スポット」を再編集し散文として掲載するとともに、中部地方整備局と本協会との意見交換会の議事録も掲載させていただきました。

常設委員会報告では、これまでの6委員会1ワーキングの報告に加え、継続的な活動を実施している「女性活躍推進ワーキング」を合わせて掲載することとしました。当ワーキングの報告では、女性技術者座談会の様子や内閣府の取組みの一環として理工系分野に興味のある女子学生を応援する「理工チャレンジ」を紹介しています。これらの活発な活動を通じて、女性活躍の一助になればと考えています。

本文の締めくくりに当たりまして、改めて今回の執筆に協力いただきました方々に感謝申し上げます。また、中部地方整備局の皆様には、意見交換会の開催のみならず、本誌の口絵を飾る写真の提供をいただきました。合わせて御礼申し上げます。

なお、機関誌としての書式統一のため、各執筆者からの大変貴重な原稿を多少編集させていただいたこととお詫び申し上げます。

今後とも、皆様の興味を呼び起こす話題を提供できればと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

編集委員会



一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

中部地質調査業協会「土と岩」No.68

発行： 中部地質調査業協会
〒461-0004
名古屋市東区葵三丁目 25 番 20 号
ニューコーポ千種橋 403 号
TEL 052-937-4606
FAX 052-937-4607

2020年4月1日発行

企画： 株式会社建通新聞社 中部支社
印刷： 株式会社グラックス・マツバラ